

# 地域の観光をデザインする

関西のデザイナーが考える観光化計画—①

近畿圏デザイン協会協議会

京都デザイン協会

神戸デザイン協会

堺デザイン協会

奈良デザイン協会



## C O N T E N T S

### ② 観光化計画 構想

- 4 京都の考え方  
室町活性化プロジェクト
- 6 神戸の考え方  
「みなと」を神戸観光・交流の中心に
- 8 堺の考え方  
「堺もん」— 街道もの語り —
- 10 ならの考え方  
奈良きたまちを新観光地に
- 12 近畿圏デザイン協会協議会 概要



## 地域の観光をデザインするプロジェクトがスタートしました

関西地区のデザイン4団体(京都・神戸・堺・奈良)が近畿圏デザイン協会協議会という交流ネットワークを主とするデザイン研究会を立ち上げ「観光」という統一テーマで共通の認識を持ち、連携を取りながら各地域にふさわしい観光化計画を提案することになり、各々のプロジェクトがスタートしました。観光産業の成長なくしては、地域経済は語れないとされている今日、特に大きな観光資源を抱える関西において、それらの活用と新たな観光を創出することは大変重要な意味を持ち、急がれることもあります。現在、様々な計画が試案されており、ある一部ではすでにプロジェクトがスタートしています。また、各地域の中長期計画にもこの観光事業が重要な位置を占めているのも確かです。そうした動きの中、私たちデザイナーもその一端を担うべく地域活性化を視野に入れた観光化構想をスタートさせることになりました。

## 現状の分析と地域を見直す新たな試案

4地域(京都・神戸・堺・奈良)は、各々が抱えている観光や地域経済など、現状の見直しと、地域の特性(歴史・文化・生活環境)から観光資源としてのポテンシャル。また、観光客を受け入れるマーケットとしての環境整備など様々な視点から分析を行ない、関西地区全体を視野に入れながら各々が繋がりを持ち、地域の独自性が發揮できるネットワーク構想を基本とした考え方(コンセプト)のもと観光計画を構築しています。

## 観光マーケティングのこれからの方針

観光が多様化してきていると言われています。高齢化社会におけるライフスタイルと価値観の変化など、そのニーズの多様化は観光においても様々な形で現れています。名所を訪ね、美味なるものを食し、記念品を買って帰るといった従来型のパターンは減少傾向が見え、世界遺産や名所旧跡に頼るだけの観光資源だけでは、リピーターを望むには限界があると予想されます。

人はなぜ観光をするのか……。上述した消費生活におけるトレンドやニーズがベースとなっているわけですが、多くの人々は、新たな知識や情報、まだ見ぬものに憧れを抱き、それを求めるものです。こうした潜在的な欲望を満たす行為として観光があるわけで、これが観光の本質だと思われます。エコツアーや始まる自然との共存体験を味わえる森林や名水巡り、趣味を探求する美術品やミュージアム巡り、

伊能忠敬や俳聖芭蕉の足跡をたどるツアー。窓元産地巡りから、地域の物産購入ツアー、祭りや行事など自らの考えを満たす価値追求型観光“観るから学ぶ”これがこれからの主流となると考えられます。こうしたカルチャー指向の強いマーケットニーズに応えるべく様々な提案と受け皿としての整備が急がれます。

## デザイナーの視点

地域においてデザイン活動を行なう。自らが住んでいる生活の場にデザインワークを求める……。このことは地域の生活や文化、産業をベースにデザイン振興を進めるということですが、自らのデザインワークをもう一歩進め、その活動を集約すると観光に繋がります。地域の活性化は観光の活性化。デザインのより具体的な活動は観光のためということになります。私たち近畿圏デザイン協会協議会のメンバーも、こうした共通の考え方で観光化計画を進めたいと考えています。また、おそらく全国にあるデザイン団体、地域で活躍するデザイナーの共通のデザインワークにもなると考えられます。したがって、観光客誘致だけが目的ではなく、どうすれば地域のためになるのか、地域ビジネスに繋がるのか。まちおこしや、まちづくりに寄与出来るのかなど広い視野で考えています。

街の整備と景観問題、サイン計画から現状の観光スポットの改善計画、物産・特産品から地域ブランドの創出、ホスピタリティの基盤づくり、交通アクセスおよび新たな交通機関の導入など、これら様々なものにデザインが関わりがあり、提案活動に繋げていくことになるとと考えています。今回、こうした現状を分析し、今、地域で必要とされているポイントを見定め、そのあたりから着手していきたいと考えています。私たちデザイナーは、地域のグランドデザインを描く。これが最終目的です。今回は、その大きなポイントとして「観光」にフレームを合わせ、デザインを描くことから始め、地域のイメージアップに寄与出来ることを目指しています。



平成16年10月より始まった、この交流ネットワークデザイン研究会も本年度より、各デザイン協会の構想案がまとまり、パネルなどを展示する巡回展形式をとり、各々の地区でシンポジウムを交えた発表会を行う予定です。そのプレゼンテーションの場は、その地域のデザイン協会が担当することになってますが、他の3協会も参加し、強いバックアップ体制をとり、より力のあるネットワーク構築を目指して行きます。

# 京都の考え

## 室町活性化プロジェクト

### 企画概要

京都市内中心部においては、バブル崩壊後の不景気で倒産した企業のビル跡地が駐車場やマンションに姿を変えている。そのため平安遷都以来、日本の都として新しい文化を率先して受け入れながらも、伝統とモダニズムを内包してきた京都の魅力のある町並みは、平凡な町並みになりつつある。それは景観だけの破壊にとどまらず、祇園祭をはじめとする京都に脈々と受け継がれてきた文化や伝統行事又、人の心すら破壊しかねない。

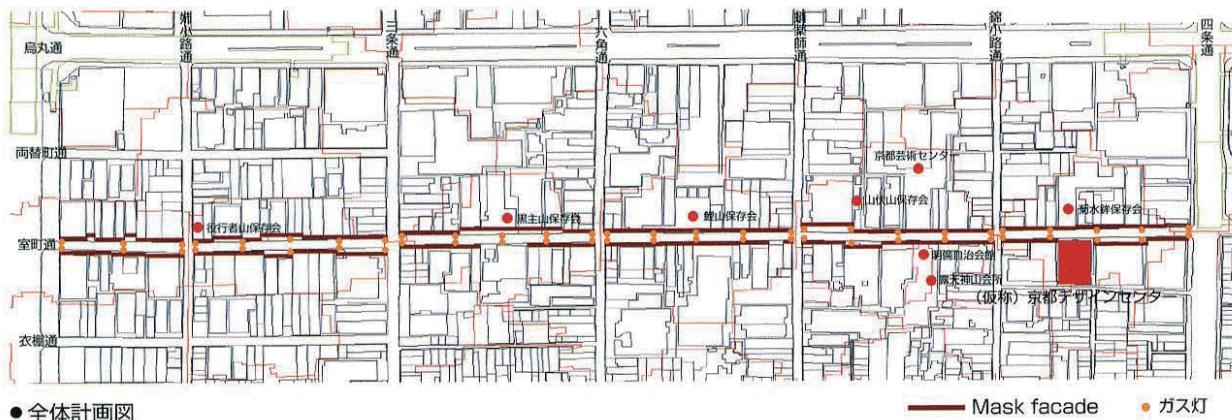
むろん、その場所に住む人たちの栄枯盛衰や建物自体の寿命などの要因により、ゼロからのやり直ししか選択肢がない場合もありうるが、しかしあげがえのない地球環境への配慮や、京都という街に眠る歴史ある建造物などいわゆる「ストック」の活用といった視点に基づく街づくりは、これから時代に求められる新たな地域の活性化の一つの方向性であると考える。伝統と歴史が息づく都人のまち、室町のリノベーションをはじまりとし、京都リノベーションへつなげていくことが本プロジェクトの基本的な企画提案内容である。

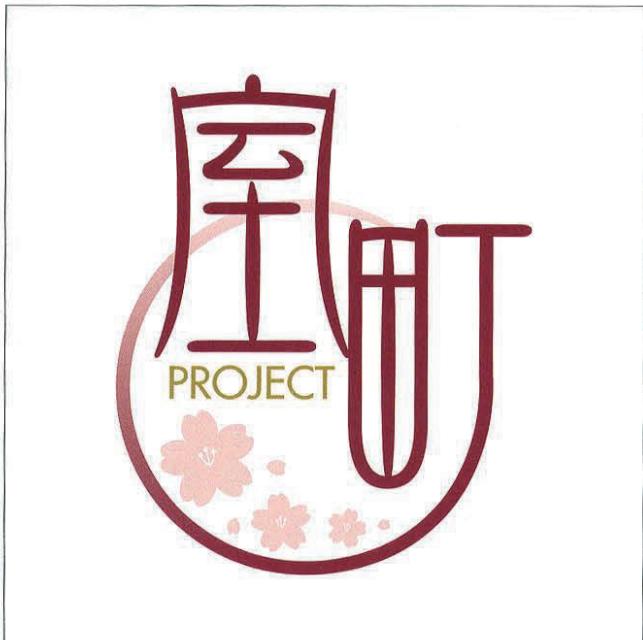
### 地域としての背景

京都観光に訪れる入洛客は年間約4500万人を数える。四季折々の京都を満喫しに訪れる京都ファンは後を絶たないが、しかしながらその一方では経済効果とは裏腹にその人々のマナー、文化度、審美眼の無さに地元京都の人々は落胆の色を隠せない。

京都の魅力の本質や真理は一体いつ、誰が教えてきたのか又、誰がそれらを教える役目なのか、聖職者、宣教師不在の現実は京都のみならず観光地を抱える町々の危惧するところである。京都デザイン協会では数年前より会員展覧会にこのテーマを掲げ問題提起を行っている。又、当協会が先頭に立ち「京都室町再生プロジェクト」なる21世紀の街づくり構想もスタートさせた。長年に亘り呉服問屋街であり祇園祭の鉾・山町であるこの室町の呉服問屋の旦那衆達は多くの芸術家や文化人をパトロネージしてきた。その証はまだこの時代にも蔵に眠っている。着物は日本の民族衣装であるとともに日本人が世界に誇れるすばらしい文化。この文化を継承する室町エリアを21世紀にふさわしい美感の町として再生させモデル化するプロジェクトが、京文化熟成の狭域地区構想である。

近畿圏デザイン協会協議会研究交流会における当協会の取り組みとしてはこれらの事業ともリンクさせ、京都観光のさらなる活性化の目玉として位置づけられる研究テーマを策定した。





● 京都・室町美感通りシンボルマーク案



● 京都・室町美感通りサイン案



● 室町通りに面するビルに千本格子イメージの  
ファサードとシンボルのガス燈を設置する



● 室町通りに設置されたレトロなガス燈の灯りが  
散策を楽しむ人々の心を和ませてくれる。

# 神戸の考え

みなとが賑やかになると、神戸はもっと元気になる!  
**「みなと」を神戸観光・交流の中心に**

## 企画概要

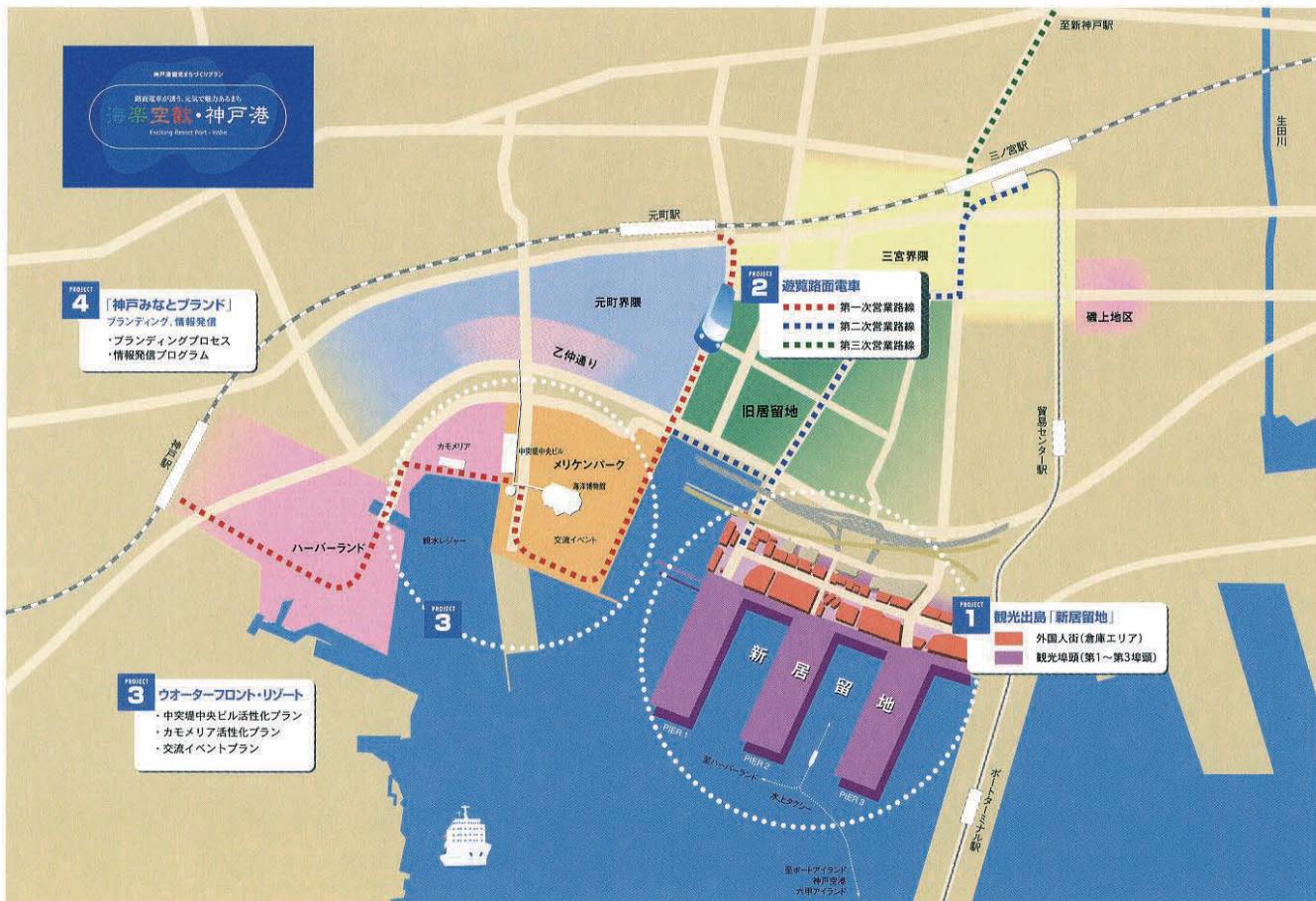
神戸港を神戸観光の中心と位置づけ、魅力あるスポットに育てるための施設新設、既存施設のリニューアル、アクセス確保そしてブランド、アミューズメント等の総合まちづくり計画。

プランは4つの大きなプロジェクト「観光出島・新居留地」「遊覧路面電車」「ウォーターフロントリゾート」「神戸みなとブランド」で構成される。対象エリア(下記マップ参照)は神戸新港第1～第3突堤、西に隣接するメリケンパーク、中突堤、ハーバーランドとし、遊覧路面電車でダウンタウンとリンクさせる。全体の完成は西暦2018年(神戸開港150周年)をめざす。

## 地域としての背景

神戸は幕末の開国以来、国際貿易港として当時の海外の最新情報、ヒト・モノ・文化をいち早く手に入れることができ日本全国に発信してきた。その伝統が神戸にハイカラライフスタイルを根づかせ、今日の「おしゃれな街」の名声を得るに至る「みなと」は、神戸の大きな財産である。

現在、神戸港本来の機能は六甲埠頭、ポートアイランド等へ移ったことにより、これまで主役であった新港第1～第3突堤エリアは遊休地となり、神戸市は港の再開発を計画している。



PROJECT  
1

## 新居留地 NEW FOREIGN SETTLEMENT

神戸の繁栄は、旧居留地の国際交流から始まった。世界の人々が集い、文化と情報が交流する、神戸ならではの魅力を更に増幅・重層化する「新居留地」を神戸新港につくる。

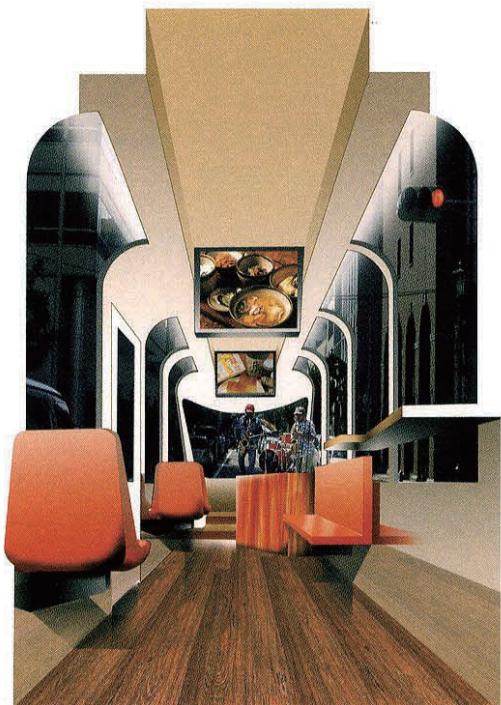
神戸新港第一突堤再生プラン



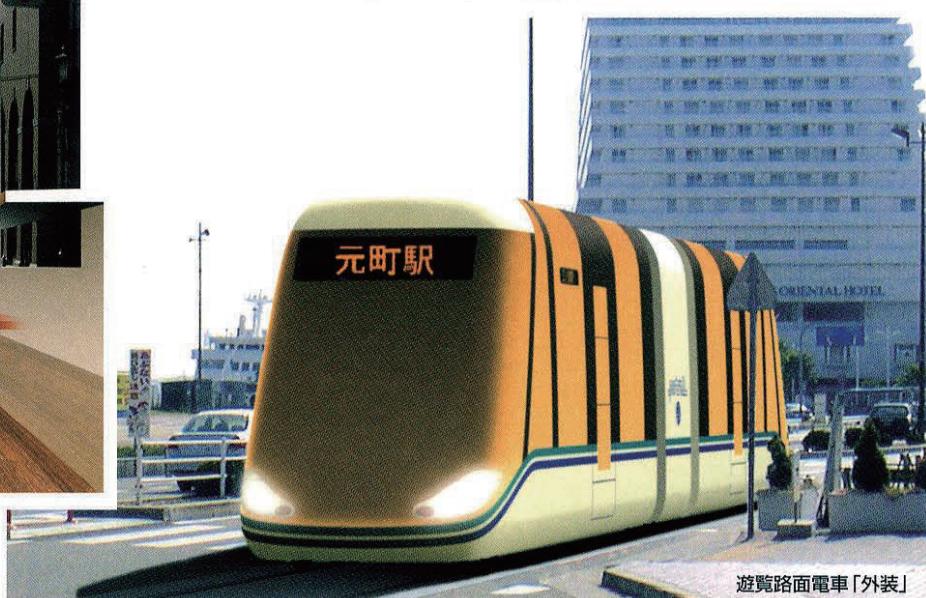
PROJECT  
2

## 遊覧路面電車 SIGHTSEEING LRV

人々で賑わうダウンタウンと港を、気軽に周遊できるシンボリックな路面電車を走らせ、乗っても歩いても楽しい、テーマパーク「みなとまち神戸」を演出する。



遊覧路面電車「内装」



遊覧路面電車「外装」

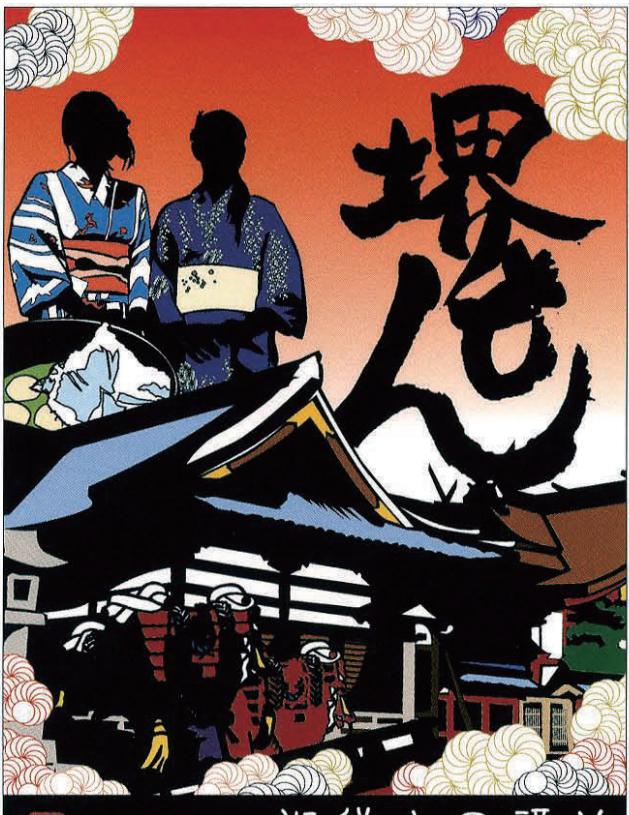
## 「堺もん」—街道もの語り—

### 企画概要

堺市の観光を考えると、まずあげられるのは歴史で習う世界最大級の墳墓、「仁徳天皇陵」である。大きく瀬戸内海に向かって開かれた港湾都市として、その墳墓の偉容は訪れるものたちを圧倒したことであろう。そして交通の拠点として様々な街道が堺を通り、京へ、紀州へ、熊野へ、高野山へと、如いては海路から四国金比羅、日本海側への北前船まで、実に様々な人、物、文化の交差点であった。今に残るその沢山の街道を、今一度堺市の文化観光の柱としてとらえ直し、「デザイン」という新たな舗装を施し、堺が生み育てたいろいろな人々の営みを昇華することによって、観光都市「堺」を創り上げて行こうという企画意図である。まず、全体のテーマとして「堺もん」という言葉に大きな意味を持たせた。「もののはじまりみな堺」と詠われたように、堺の文化・産業は古くから先進の技術や情報に富んでいた。それらが現在まで伝え育まれたものを「堺もん」と呼ぶことで、一つのブランドとしてとらえて行く。さらに、観光の要素を3つの街道…「祭り街道」「うまいもん街道」「わざもの街道」として展開。それぞれの要素に対してデザインが絡むことにより今までよりさらに活性化させて行く。「祭り街道」では堺の地場産業である和晒しの活性と、祭りへの動員数増加へ向け、「半纏（はんてん）」をデザイン。祭りへの参加意識を駆り立て、着ているもの同士の連帯感をもたらす。「うまいもん街道」では堺の名物と呼ばれる和菓子の提案。お土産としての地位を築く。「わざもの街道」では刃物や線香などをお土産や日常使いのデザイン雑貨として展開して行く。近い将来には「堺もん」の認定組織などへ発展していくよう、育てて行きたい。

### 地域としての背景

堺市は平成18年4月から政令指定都市として新たな都市計画を走り始めた。その一つの大きな柱が、文化・産業振興に伴う観光資源の発掘と創造である。古くは港湾都市として隆盛を極め、日本でも有数のリゾート都市であった。しかし昭和の臨海地域開発による工業地域の台頭により、公害の町として名を馳せ、まったく観光のかけらも見えなくなってしまった。大阪との境にある大和川は日本一汚い川となり、その堆積した土砂のため船も入れなくなって、港の機能は失われた。空襲によって焼失した町並みの美しい風景。今の堺にのこっているもの…それこそが「堺もん」であり、また新たに生み出されて行くものも「堺もん」である。「摂津」「和泉」「河内」の3つが交わる三国の丘に仁徳陵があり、境であることからその地名「堺」となった。それぞれに地域へ伸びて行った街道をモチーフにして、堺に新たな観光のタネを創出して行きたい。現在堺は「堺ルネッサンス構想」と称して再構築を始めている。観光にも大いに関心を持ち、市内の中心に観光拠点を作る計画もある。臨海地域も開発計画が大阪府全体の事業として進んでいる。デザインに対しても積極的に取組みだした。東京や京都からプレーンを連れて来て、「デザイン都市・堺」を計画している。地元の企業はもちろんの事、堺以外の企業や地場産業までにデザインオリエンテドの波を波及し、ゆくゆくはデザインセンター設立というプランまで発表した。そこで、我々堺デザイン協会としても、独自にその方向性を支援しながら、実現に向けてフォローして行きたいと考えてる。



堺もの語り  
さかいたちのまちのうまいもんとわざの街道  
2006 SAKAI design.



うまいもん街道  
堺の美味しいものを肴め、対長し、咲うる街道をデザインする



さかいたちのまちのうまいもんとわざの街道  
さかいたちのまちのうまいもんとわざの街道  
さかいたちのまちのうまいもんとわざの街道



わざもの街道  
伝統の「わざ」で新し口被兎や「堺もん」をデザインする

## 奈良きたまちを新観光地に

### 企画概要

#### ●「世界遺産一望 多聞山城址展望台と佐保川桜公園」の提案

世界遺産登録古都奈良の文化遺産である東大寺、興福寺、春日大社、春日原始林とかつての南都を、若草山を借景として一望できる展望台を多聞山城址に新設する。城の裾を流れる佐保川と川沿いの市有地を桜公園と親水空間として整備、川下に続く有名な桜並木と結び散策桜回廊を整備していく。以上を一体的に計画、整備することにより、奈良観光に新しいシーンを加え、魅力を倍加、新たな観光を創出する。あわせて「奈良きたまち」散策観光の拠点と市民の生活環境を豊なものに変える一助としたい。

### 展望台計画:A、B2案

現若草中学校に隣接する東南斜面に既存樹木を残して計画。展望テラス、トイレ、喫茶、売店、多聞山城関係資料展示コーナーを装備。A案では展望テラスを2階にその他の施設を1階に設け展望を兼ねたスロープで上下階をつなぐ構想としている。B案ではテラスレベルを高くしている。学校との境界部に塀を設け学習環境の保全と安全を図る。塀や床などの建設材料は奈良瓦や吉野材など地場産材を使用、一部に城をイメージする石垣等を計画。

### 佐保川桜公園計画

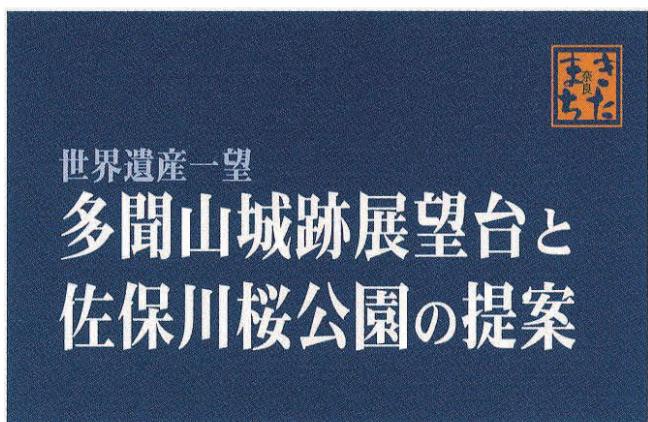
公園の植栽は、主に桜で計画するが、年間を通じて楽しめることを考慮して紅葉等も加える。親水部には花を楽しめる植栽を計画したい。散策路、ベンチ、トイレ等を設け時間を楽しむスペースとしたい。カフェなどの飲食は近隣の民間に期待、共存を図る。

### 地域としての背景

奈良デザイン協会では、一昨年、「奈良の観光をデザインする」をテーマに観光ワーキンググループを発足、その後、観光研究部会として拡充活動してきた。

日本の文化事象の多くは奈良から始まったといわれている。県下各地には二つのユネスコ世界遺産登録建造物や飛鳥地区など多くの文化観光スポットが県下各地に散在している。奈良では、平城京遷都1300年を4年後の2010年に迎え、記念事業を計画している。同年は松永久秀が多聞山城を築城して450周年に当たる。国の「観光立国行動計画」の推進とあわせて内外観光客の入り込み数が増加するなか、とりわけ平城京遷都1300年記念事業イベント時には、主会場の平城京跡と世界遺産登録の東大寺、興福寺、春日大社など奈良公園エリアとの間に多くの観光流動が見込まれている。

「奈良きたまち」は、近鉄奈良駅の北側一帯、奈良坂までの地域で「ならまち」の北にあたる。「奈良きたまち」はかつて、北に多聞山城と奈良坂の丘、佐保川の流れ、京都への出入り口として繁華街や正倉院御物の修復工人の町等があり、江戸時代に南都八景に四景(佐保川の螢、雲井坂の雨、轟き橋の旅人、東大寺の鐘)選定の「住んで良し観光に良し」の地で、1300年の歴史が多重に積層する特別な地域である。観光研究部会では、「観光地」認識のほとんど無かった「奈良きたまち」を、日本文化の始まり探訪とその後の時代毎レイヤーの共存状況等、さらに深く知り感じる機会と環境の提供などを、入り込み観光客と現住生活者の調和、共存と交流を基底として、「歩いて楽しめる街まるごとを新しい観光地としてデザインする」をテーマに取り組んでいる。「若草山を背景に世界遺産と南都を一望する多聞山城跡展望台の設置と佐保川桜公園の整備」を取組みの一部として提案する。



### 世界遺産一望多聞山城址展望台

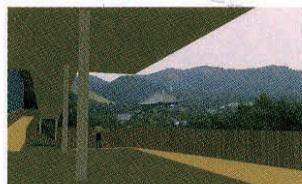
#### 計画地:

- 現若草中学校地に隣接する  
東南側斜面

#### 展望台プラン-A

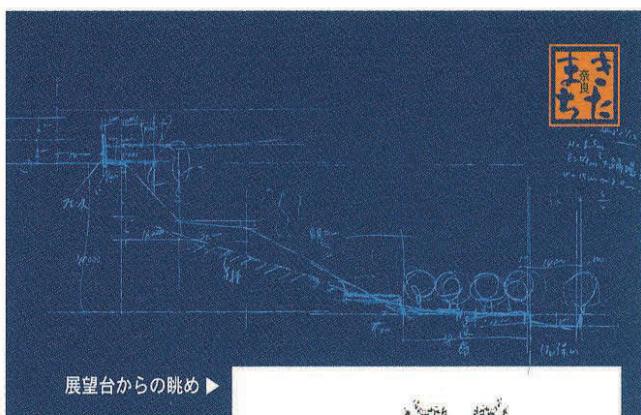
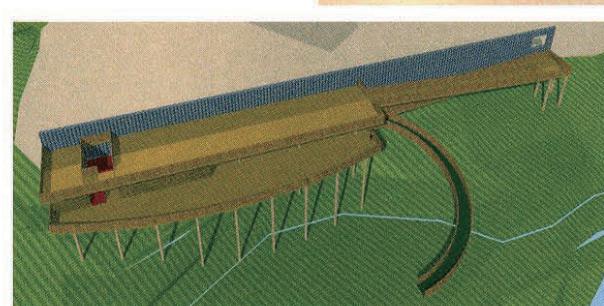
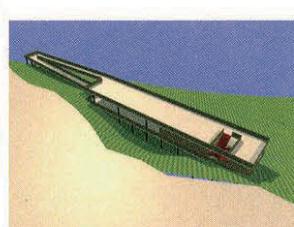


#### 展望台からの眺め ▼



#### 計画施設概要:

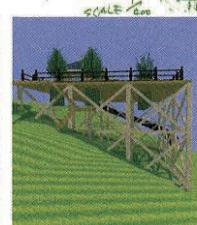
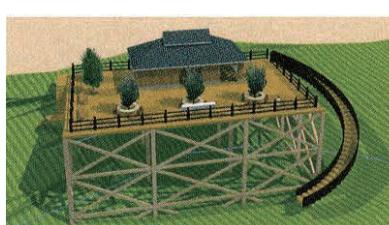
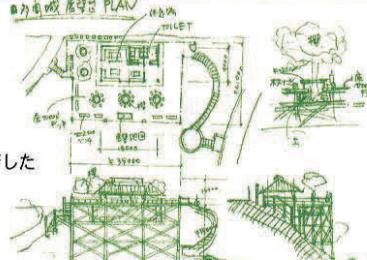
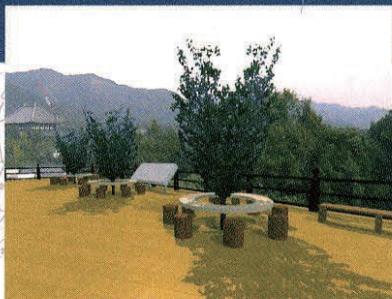
- 現状樹木を残して展望を確保。
- 展望テラス、男・女・身障者用トイレ、喫茶、売店、多聞山城資料コーナーを設備。
- 寄付きは本提案「佐保川桜公園」から既存階段を拡充したルートで、障害者と物流サービスは学校の協力を得て校地内道路を利用。



#### 展望台プラン-B

#### 計画施設概要:

- プラン-Aを岩風にアレンジしたナチュラルプラン



### 佐保川桜公園





## 近畿圏デザイン協会協議会 概要

### 設立主旨

現在、近畿地区にはさまざまな活動を行っているデザイン団体があります。今、地域を取りまく自然や生活、産業や企業における社会環境が急速に変化しています。私たちデザイナーは、そうした問題に対して、デザインを通じて新たな価値観や考え方などの提案を行い、地域活性化のため活動をしています。近畿圏デザイン協会協議会(京都・神戸・堺・奈良)は、そうした地域の課題を解決するため、その枠を超えて情報交換を行い、交流を深め、研究を重ねながら各々が独自性を発揮できるネットワークを基本とした考え方を基に、地域と近畿圏全体のデザイン振興に少しでも寄与することを目的にスタートした団体です。(平成16年10月設立)

### 〈所属団体〉

#### 社団法人京都デザイン協会

〒602-8233 京都市上京区霞屋町通中立売上る福大明神町128 京都西陣町屋スタジオ1階  
TEL (075) 415-8008 FAX (075) 415-8028 URL:<http://www.kyoto-design.net>

本協会は1967年5月「21世紀への新しい波を京都から!」を設立主旨として、京都にデザイン活動の基盤をおく各ジャンルの第一線で活躍するデザイナーおよびデザイン団体を結集し、京都デザイン協議会として組織され発足しました。1979年京都デザイン協議会を京都デザイン協会と改名、1981年に社団法人京都デザイン協会に移行し、現在、グラフィック、インテリア、ディスプレイ、建築、都市計画、プロダクト、テキスタイル、コスチューム、などの幅広いジャンルの会員により構成されています。本協会はデザインをつうじて京都の地域産業の振興とその国際的独自性の確立をはかり、併せて京都の心豊かな地域生活環境の形成に寄与することを目的として、府、市、公共団体等のデザイン振興事業の受託実施、会議、展覧会の開催、国内外の関係諸団体との交流、連携、等の社会的活動を力強く展開しつつあります。これらの活動が契機となり、「新しい波」として京都から全国に、さらに世界に向かって波及することを願うものです。

#### 堺デザイン協会

〒599-8112 堺市東区日置莊原寺町180 白石彫刻研究所内  
TEL/FAX (072) 287-4466

本会は1983年、堺市在住や堺に勤務する様々なジャンルのクリエイターが集まり、会員相互の分野を越えた交流と研鑽により、デザインの向上を図り、もって地域の生活文化の向上、および産業の発展に寄与する事を目的として設立致しました。会員はグラフィック、インテリア、プロダクト、ディスプレイ、建築、彫刻、フラーーデザインなど多様な分野で活躍するメンバーにより構成されています。また賛助会員として、商工会議所を始めとし、市議会議員、堺の伝統的産業である刃物の製造・販売、ガス、和三盆製造会社など、堺の産業・文化に大いに貢献されている企業が加盟されています。本会は日々のデザイン活動を通じ、政令指定都市となった堺のさらなる文化や産業の発展の一助となるよう、社会的意義のある活動を邁進してまいります。

#### NPO法人神戸デザイン協会

〒651-0083 神戸市中央区浜辺通4-1-23 三宮ベンチャービル402  
TEL (078) 232-0074 FAX (078) 232-0074 URL:<http://www.kobedesign.net>

変革の時代を迎え、“元気で魅力あるまちづくり”は、あらゆる地域の団体および個人が共通に認識する目標となっています。この目標を効果的に達成するには、経済、産業、教育、文化、芸術などいざれの領域においても適切な計画および設計が重要と考えます。また、まちづくりを支える“ものづくり”においてもユニバーサルデザインなど人間学的な視点に立ったデザインワークが、こころ豊かな暮らしのために求められています。そこで、私たちは「特定非営利活動法人 神戸デザイン協会」を設立し、デザインが地域社会に対し果たす役割について英知と情熱を集め、地域の文化および経済の振興を促進させるデザインの提案を組織活動を通して実施することをめざしています。また、デザインに関する研究会、展示会、講演会などを通して広く地域社会に対して働きかけ、交流する機会をつくりたいと考えています。任意団体「神戸デザイナーズ協会」として24年間積み重ねた研究成果と活動経験を基におこなう事業を、より継続的にかつ活発にそして公正に推進していくためには、社会的に認められた公的な組織にしていくことが重要と考え、平成17年11月に法人として再スタートしました。

#### 奈良デザイン協会

〒630-8377 奈良市脇戸町20-1  
TEL/FAX (0742) 23-4977 URL:<http://www.mahoroba.ne.jp>

奈良デザイン協会(NDA)は1986年11月29日に発足しました。奈良県におけるデザイン振興を進めるため県在住の各分野のデザイナーが集まり、互いに交流を図り、デザインの啓発と技術の向上を目指すとともに、奈良の生活や文化、産業の発展に少しでも寄与したいという願いを込めて今まで独自の活動を続けてきました。いま、生活環境、経済構造は急速に変化しています。エコロジーとIT時代への対応といった課題から身近な日常生活への提案まで、現在のテーマは多岐に渡っています。こうした状況の中、私達デザイナーは、デザインを通して問題解決を図るため、新しい提案を積極的に進めていく必要があります。NDAは会員相互の知識や情報交換を活発に行い、常に新しい発想を磨き、地域の生活やデザイン振興に係わる様々な提案活動を行っています。

近畿圏デザイン協会協議会

所属団体 社団法人京都デザイン協会  
NPO法人神戸デザイン協会  
堺デザイン協会  
奈良デザイン協会

近畿圏デザイン協会協議会

地域の観光をデザインする  
関西のデザイナーが考える観光化計画①

発刊日 平成18年11月  
発 行 近畿圏デザイン協会協議会  
用紙提供／平和紙業株式会社  
用紙名／エスティム 四六判 135kg  
印刷・製本／株式会社タムラ印刷

本誌掲載の記事・写真などの無断転載を禁じます。



近畿圏デザイン協会協議会